

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|------|-------|-------|--------------|-----------|---|-----|-------|---|---|
| 授業 科目 | CT2J60 | 2単位 | 選択 | 実習 | 2年生前期 | 担当 教員 | 専任講師 佐藤高博 | | | | | |
| | 保育実習Ⅲ | | | | | | | | | | | |
| 授業 の 概 要 | ① 居住型児童福祉施設等および障がい児通所施設等において10日間の実習を行い、施設の役割と機能について理解を深める。 ② 観察等を通して、施設職員の指導に基づき利用児・者への理解を深め、個々の状態に応じた関わり方について学ぶ。 ③ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 ④ 自立支援計画・個別支援計画等の理解や作成を通じて、施設職員の関わり方の視点や方法について理解を深める。 ⑤ ⑤大学での学習に加えて、施設実習を通して実際にその場に身を置き、体験することで学びを深める。 | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | 学習成果Ⅰ | | | 学習成果Ⅱ | | | 学習成果Ⅲ | | |
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ |
| 1. 児童福祉施設等の役割や機能について、実践を通して理解を深める。 | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉および社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。 | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 凡例 ◎：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために特に重要な目標、○：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために重要な目標 査定項目①～⑨はVページ参照 | | | | | | | | | | | | |
| 主 題 | | | 準備学習 | | | 本時の学習内容と到達目標 | | | 復 習 | | | |
| <実習の内容> 1. 施設の役割と機能について理解を深める。 2. 施設における支援の実際について理解を深める。 (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う利用児・者のニーズと利用児・者の理解 (3) 支援計画の作成と実践 (4) 利用児・者の家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携 3. 保育士の多様な業務と職業倫理について理解を深める。 4. 保育士としての自己課題を明確化する。 <実習の形態・方法> ○見学実習・観察実習 ・実習施設についての理解を深める。 ・施設独自の指導理念や指導方針について理解する。 ・デイリールーティンの把握と、保育士としての職務内容、安全配慮等について理解する。 ・利用児・者の生活状況および処遇の実際を理解する。 ・学校または地域社会との連携の実際を理解する。 ○参加実習 ・職員のチームワークおよび24時間処遇に対応するための勤務体制について、体験を通して理解する。 ・生活管理と指導、健康管理、学習指導、余暇指導、ケースワーク的処遇、グループワーク的処遇などの日常業務について、体験を通して理解する。 | | | | | | | | | | | | |

- ・心身の発達、家庭的背景、施設での適応状況、現在の問題を理解した上で、利用児・者の受容に努め、関わりを深める。
- ・利用児・者間の関わり（利用児・者同士、利用児・者と職員、利用児・者と家族の関係等）について総合的に捉え、理解を深める。
- ・健康・安全管理に関する対応や衛生面での配慮、および環境整備（室温、換気、清掃など）の方法を学ぶ。

○責任実習（部分）・レクリエーション等

- ・利用児・者に対する保育士としての専門性を活かしたかわり方を学ぶ。
- ・保育士の仕事に積極的に参加し、生活介助やレクリエーションなどの養護内容や保健、安全などについて体験から理解する。
- ・支援計画を実習担当者の指導のもとにつくり、保育（養護）を実践する。
- ・実習の内容は対象者の能力の度合いや運動の制約、発達状況を考慮し、利用児・者が楽しく参加できるよう工夫する。
- ・疑問点等は、実習担当者に積極的に質問し、それについて反省し、指導を受ける。

〈留意点〉

- ・実習施設の概要、目的、方針、社会的役割等を理解する。
- ・利用児・者数や措置理由等について理解する。
- ・利用児・者の名前、年齢、特徴を早く覚える。
- ・デイリープログラムを理解し、積極的な姿勢で実習に臨む。
- ・自らの考えや課題を持って、利用児・者の指導にあたる。
- ・実習先の施設については、予め利用児・者に対する指導方法等について、基本的な知識を得た上で実習に臨む。
- ・利用児・者の安全や保健（室内外の環境面や顔色、機嫌、体調などの健康面）および留意点を十分に把握しておく。
- ・利用児・者の保育・指導については、特に以下の3点に留意する。 ①平等な対応 ②指導内容が明確な態度 ③自立を見据えた支援
- ・利用児・者を観察する際には、常に視野を広く保ち、死角を作らないような配慮を心がける。
- ・指導方法、仕事内容が不明な場合は、実習担当者に確認するようにする。
- ・コミュニケーションがとりにくい利用児・者についても、さまざまな反応に目を向けて理解しようと努める。
- ・宿泊による実習の場合は、勤務時間後も施設の注意事項や利用規定、規則（食事、入浴、洗濯、宿舎の管理、外出等）を遵守する。

| | | | |
|-----------------------------------|---|----------|-----------------|
| 成績 評価 | 実習先の評価(50%) 日誌・記録等(50%) 合計 100% | | |
| 教員 から の コ メ ン ト | <p>① 実習中は体調管理に注意し、10日間遅刻や欠勤をしないように取り組んでください。また、報告、連絡、相談を徹底し、施設、大学、保育実習指導Ⅲの担当指導教員との連携を大切にしてください。</p> <p>② 挨拶、礼儀、マナーを守りましょう。</p> <p>③ 明るく、素直に、元気良く、積極的な姿勢で実習に臨みましょう。</p> <p>④ 利用児・者の「生活の場・活動の場」入っての実習であることを忘れないようにしましょう。</p> <p>⑤ 社会福祉、児童家庭福祉、社会的養護、相談援助、障害児保育などの関連科目についても理解を深めたうえで実習に臨みましょう。</p> <p>⑥ 実習の際には、実習指導資料を常に傍に置き、参考にしましょう。</p> | | |
| 教科 書 | 書名 著者 発行所 | 推薦 図書 | 書名 著者 発行所 |